



# 環境省実績集

Vol.1

## 目次

1. はじめに
2. 知床国立公園 知床五湖園地
3. 十和田八幡平国立公園 酸ヶ湯園地
4. 十和田八幡平国立公園 滝ノ上園地
5. 陸中海岸国立公園 気仙沼・大島
6. 尾瀬国立公園 尾瀬沼園地
7. 日光国立公園 光徳園地
8. 新宿御苑
9. 皇居外苑
10. 富士・箱根・伊豆国立公園 富士山頂お鉢回り
11. 伊勢志摩国立公園 神島
12. 吉野熊野国立公園 大台ヶ原
13. 濑戸内海国立公園 由良園地
14. 伊勢志摩国立公園 施設点検
15. 秩父・多摩・甲斐国立公園 標識点検

## はじめに

「ネイチャーサイン」—アボック社で製作されるサインを私たちはこのように呼んでいます。

人と生きものが暮らす空間(=ネイチャー)において、人に向きあいその場の情報をインテリ解釈するメディア(=サイン)。それは、自分の居場所を理解して、どっちに進むかを決め、その場の環境や自然を容易に知る手がかりになるものでなくてはならないと考えます。

近年は交通アクセスがよくなり手軽に国立公園に訪れるができるようになりました。観光目的で訪れる層はあまり地図や図鑑を持たず、現地のサインシステムに「案内、解説される」ことを期待しているように感じられます。

多様な環境と生物相を効率的に見て周れるルートとサインシステムの整備。まさに「ネイチャーサイン」の意図するもの(!)で、アボック社の持ち味も実はここに発揮されます。

生きもの、自然が分かり、フィールドを調査した上で表示内容を提案できること。時には池の生態画を描きおこすために魚とりをしたり、野鳥の種類を特定するために何度かフィールドに通つたり。(単にフィールドに出るのが好きなだけ、という話もありますが…汗。)

そして、パッと見てそのサインの伝えたいことがあらかじめ理解できるように、イラストや写真をメインに、文章をなるべく少なくした表示構成を頭に汗して考えます。

山では第2の人生を楽しむ団塊の世代や山ガールブームで登山者が増えています。アボック社にも登山部があり、山のサインや動植物の勉強を行っていますが、実際に山を歩いていて感じるのは、山のサインは「命に関わる」ことがあるということです。

分かりづらい分岐で指導標識がなかったり、矢羽根の向きが間違っていたら遭難事故にも繋がりかねません。実際に以前山岳サインの調査を行ったときにはそのような事例をいくつか見かけましたし、自分も迷いそうになつたことがあります。

既存サインがしっかりと機能しているか?—山岳サインの点検、修繕もサインメーカーが行うべき大事だと考えています。

外国人旅行者の訪れも最近は非常に増えています。サインの記載では余計な情報は削ぎ落としてエッセンスだけを残し、誰にでも分かりやすいもの(ユニバーサルの視点)でなければなりません。「デザイン」というとちょっと気取ったように聞こえますが、こじやれたモノにするためではなく、「コミュニケーション(=インテリ解釈)」を円滑にするための手段が「デザイン」だと我々は考えています。

ちょっとウンチク的になってしまいましたが、これがアボック社の考える「ネイチャーサイン」です。皆さまからの、厳しいご要望と鋭いご指摘を経て今後も発展させていく所存です。どうぞよろしくお願いします。

# 知床国立公園 知床五湖園地

関東での単身赴任を経て3年振りに北海道営業所に戻ってきた矢先に取引会社より知床五湖園地のサインの話を頂きました。その仕事が世界遺産の知床五湖なんて、なんて運が良いのかと思い、努力価格で無事に受注することになりました。

北海道に生まれ育って知床には何度も訪れたことがありましたが、園地に足を踏み入れたのは初めてでした。万里の長城を思わせるような高架木道、そして高架木道の展望台から真正面に知床連山があり圧倒的な迫力で感動しました。

サインの製作にあたって、承認図を作成する際に、北海道では流通していない寸法の鋼材が設計されていたため、元請業者様を通じて環境省の担当監督員様に了承を得て、部材の仕様アップを致しました。また、鋼材フレームに木化粧の寸法形状など、極寒の北海道では問題がありそうな細部の納まりなどを、後にクレームがでない様に提案をして承認して頂きました。

苦労した点は、やはり世界遺産ということもあって、環境省の監督員様が複数の関連機関との打合せに時間を費やし工期ギリギリまで時間がかかってしまった事です。

元請様の工事は既に完了しておりましたので、園地までの園路を除雪して頂き無事にサインの納品ができました。そして、次年度の最終整備にも弊社のサインを納品することができました。



名称サイン



高架木道案内サイン



誘導標識



シャトルバス乗降口サイン  
※木化粧の仕様変更提案

# 十和田八幡平国立公園 酸ヶ湯園地

酸ヶ湯集団施設地区は、十和田八幡平国立公園の北に位置し、本州有数の豪雪地帯として有名です。積雪が多い年では5mを超えることがある場所になります。付近には千人風呂で有名な酸ヶ湯温泉、地獄沼があるなど酸性ガスが発生する場所もあります。

酸ヶ湯集団施設地区のサイン計画は平成18年頃に設計されました。設計当初より、既設サインの損傷が激しいことなどから、5m以上の積雪に耐えられる構造を求めておりました。その対応として表示板上下のフレームを鋼製から木材へ変更し、また背板は軽量で強度の高いアルミハニカムパネルを採用しました。

その結果、設置数年後の現在も転倒への特別な損傷はなく、現在も利用され続けております。しかし、設置場所の裏が斜面であったことから、年々サインの背後に積もった雪に押され、だいぶ前倒しになってきております。このサインの基礎コンクリートは、通常の構造計算で検討された寸法より一回り大きいものを使用しており、前倒しになることは想定外でありました。積雪の影響は、サインの上に積もる雪のみを検討するものではなく、設置箇所も周辺の状況をよく確認し、検討することが必要だと感じました。



雪の影響で傾斜した、設置三年後の案内サイン



設置半年後の案内サイン

# 十和田八幡平国立公園 滝ノ上園地

滝ノ上園地は、秋田駒ヶ岳へと続く乳頭山や、岩手山へと続く三ツ石湿原への登山口です。周辺の山々は火山帶で、随所に噴気があがり、葛根田渓谷の上流では、地熱発電所が設けられているほどで、ここ滝ノ上温泉は盛岡の奥座敷として古くから湯治客でぎわってきました。

2011年、園地の整備が行われ、案内板・掲示板・解説板などの他、東屋や見晴台などの施設の設計にも携わり、国立公園の園地整備として、一つのまとめた仕事になりました。



総合案内標識  
周辺の山々の案内と見どころを表示しています。



掲示板  
ビジターセンターにあわせた○○屋根は、周囲の景観に調和しています。



噴気の解説板  
角度のついた解説板ですが耐候性の高いハイブリッドカラーを採用しています。



誘導標識  
豪雪地帯なので単柱の形状です。



記名標識



東屋  
広場に面した片屋根の東屋は岩手県産の杉材を用い、落ち着いたダークブラウン色で仕上げています。他にも見晴台や展望デッキを納入しました。

# 陸中海岸国立公園 気仙沼・大島

気仙沼大島は陸中海岸国立公園（現：三陸復興国立公園）の南端に位置し、快水浴場百選や日本の渚百選に選出されるなど、すばらしい自然に恵まれた有人島です。

気仙沼大島田中浜園地のサインは、そんな海岸風景に調和するようにデザインされています。

案内サインは、案内図・掲示板・パンフレットBOX・施設誘導の4つの機能を、山の曲線を描いたようなデザインの軸体にしたことで、ばらばらにならずに一つにまとめることができました。田中浜園地の玄関口に設置され、印象的な形状は離れた場所からでも存在感を出すことができたと思います。

記名サインは、陸中海岸国立公園を代表する樹木である松をモチーフに提案させていただきました。松の葉と松ぼっくりの絵はステンレスをレーザーカットして象られており、自然感と高級感を持ち合わせたデザインになったと思います。

気仙沼大島をはじめ、陸中海岸国立公園では平成23年3月11日の東日本大震災の影響で多大なる被害を受けました。津波被害の大きさを現地で見る度に、改めて津波の脅威を知らされます。そのような中、体験四阿に設置した記名サインの文字が一つも外れていなかったところを確認し、改めてしっかりととした物を作る意識を強く持ち続けていきたいと感じました。



案内サイン



松の葉と実をモチーフにした記名サイン



被災後の記名サイン

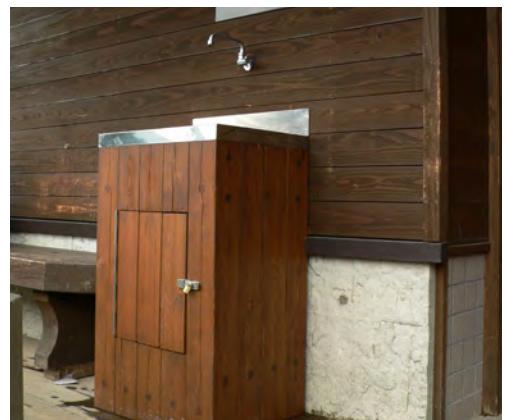
# 尾瀬国立公園 尾瀬沼園地

尾瀬国立公園では、国立公園として独立する前後に仕事をさせていただきました。

尾瀬沼キャンプ場や尾瀬沼園地の標識は国立公園として独立する前に納品させていただいたものですが、なぜかこの時は、「標識」のカテゴリーには当てはまらない水場のシンクとその本体まで製作させていただきました（汗）。後日見に行ったときにきちんと機能していたので一安心した思い出があります。

実はこの時、通りすがりの登山道に、「環境庁」や「日光国立公園」などの古い表記のサインがないか、簡単に見ておいて欲しいと依頼を受けました。律儀な私（笑）は簡単な調査表をつくりご提出したところ、その秋には別路線の標識につき調査業務を委託され、仕事（調査）をしながらも人生3度目の尾瀬を満喫させてもらったのでした。

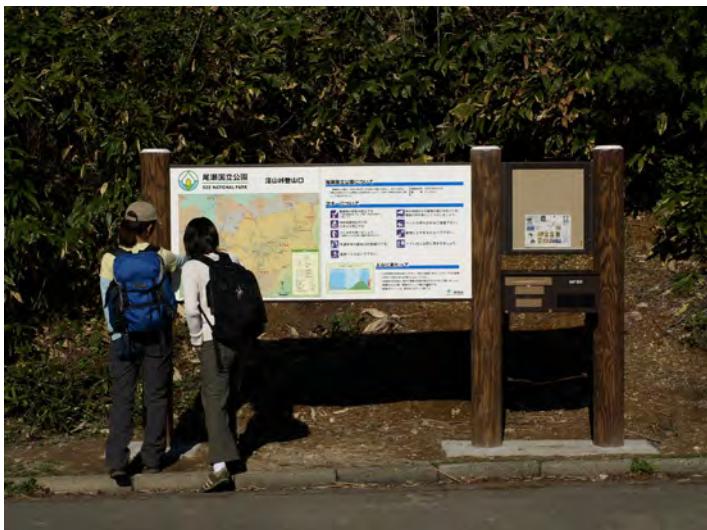
そんなご縁もあってか国立公園化の折には、登山口の総合案内板や国立公園記名標識も製作させていただきました。「案内標識は雪の時期には柱だけ残して、表示板と掲示板、投函BOXは取り外せるようにして欲しい。取外し後は自家用車に積めるサイズになるように」という難易度の高いオーダーでしたので、その後機能しているか心配でしたが、2年前に尾瀬を訪れた際には無事だったのでここでも一安心したのでした。



サインではないのですが、こういうのもつくります！



国立公園入口の道路標識型記名標識



掲示板や登山者カード入れを併設した案内板。冬期は表示板がはずせる



大判なので、表示板は2分割しています



案内と注意を2基に分けた小型サイン



キャンプ場受付の尾瀬沼ヒュッテ内にも共通デザインのサイン



丸太のR形状にあわせて柵にフィットさせたサイン

# 日光国立公園 光徳園地

普通このような事例集でご紹介する案件は比較的最近のものが多いのが常ですが、この「日光光徳園地 自然解説板」は 2003 年、つまり 10 年前に納品させていただいたものです。

「表示板が見えなくなっている自然解説標識があるのだが、表記内容の提案からやってもらえないか?」—このような自然系の提案オファーに対してアボック社は燃えます(笑)。しかもこの時は現地を把握するための調査費まで認めていただいたので、弊社植物情報室のスペシャリストと一緒に立って早速調査に出発したのでした。

奥日光において光徳園地のある場所はちょうど湿原から森林に入ったところにあります。解説板ではそのような環境を把握したうえで、戦場ヶ原のような湿原の解説板と内容がかぶらないように留意しました。そうして出来たのが「ミズナラ林」「野鳥」「花」「秋の美しさ」「湿原のできた理由」をテーマにした解説板です。なるべくビジュアル的要素を盛り込み飽きない程度の文章量で構成しました。

さて、10 年前のこの表示板。実は耐候性とコストパフォーマンスのバランスではアボックイチ押しのハイブリッドカラー印刷板で製作されています。私が 2 年前に光徳園地を訪れたときにはまだイキイキと輝いていました! きっとその輝きは今も変わっていないハズです。

当時は表面仕上げが光沢しかなかったハイブリッドカラー(写真がテカテカしているのはそのせいです...)ですが、いまではマット仕上げが可能になっています。



現地調査のうえ表示内容をご提案した自然解説標識。イラスト、写真を中心に構成。

# 新宿御苑

アボック社が今日のように環境省のお仕事をさせていただけたようになったのには、やはり新宿御苑で多くの経験をさせてもらったことがあります。

新宿御苑では古くは 27 年前（！）に桜の解説板をラブロックという躯体で製作させていただきました。その後表示板は何度か改修があったものの、ラブロック躯体は未だに現役で頑張っています。その後ブランクがあったものの、1997 年にハルニレの切株に解説板を製作させていただきました。

苑内自然解説板では前年他社がつくったものが文字だけで評判が悪かったようで声を掛けていただき、アボックならではの精密画や模式 CG を使ったビジュアル的に分かりやすい表示をご提案しました。

各門苑名板では新宿御苑で伐採されたケヤキを利用し、ご要望により墨で表示入れ（初体験！）をさせていただきました。



各門苑名板  
発生材をご支給いただき、墨で文字表記



苑内自然解説板  
イラストをメインにして伝わりやすく



インフォメーションサイン  
表示はマグネットシートで季節により取り替え式



パンフレット台  
時にはサインとは言いがたいものもつくります！



避難門サイン  
計らずも東日本大震災時にはその機能を果たしたそうです



桜樹名板  
苑内のほぼすべての桜の名前が表示されました

# 皇居外苑

皇居外苑においては、「皇居」という日本で唯一無二の場所に数多くの外国人観光ツアーやが訪れるため、よりユニバーサルな視点のサインの必要性を最近とみに感じています。

先日改修させていただいた誘導標識と規制標識は、多国語表記と、分かりやすく且つJIS規定からも大きく逸脱しないピクトグラムをご提案させていただきました。



誘導標識  
ピクトグラムと距離表示、4ヶ国語表示で分かりやすく



規制標識  
ピクトグラムと距離表示、4ヶ国語表示で分かりやすく



橋正成像記名標識  
皇居外苑のメインスポットにもアボックサイン♪



桜田門記名標識  
石垣石をご支給いただき加工



桜田門解説標識

# 富士・箱根・伊豆国立公園 富士山頂お鉢回り

## 日本一高いサイン！富士山お鉢回りコースサイン

2013年、世界文化遺産に登録された富士山。私達は2009年より山頂お鉢回りコースのサイン整備に関わり、その年の秋について完成・納品となった。

今回の標識は、過酷な気象条件に耐えうるよう、ステンレス・擬石、そして表示板はホーロー板やハイブリッドカラー（電子コート）など、かなりのハイグレードな仕様で図面化された。サインの種類は、解説板・方向指示板・注意板・記名板の4種であるが、

独立型よりも、岩盤にアンカーを打ち込んで取り付けたものも半分くらいある。

## 2年にわたる富士山サインメンテナンスの結果！

2012年7月末、いよいよ2度目の富士山へのチャレンジだ。思えば昨年、9月半ば、初日は須走口から本八合の山小屋に入るが、夜から一転して山は大荒れ、早朝になっても天気は回復せず、山頂まであと1時間半の所ながら、泣く泣く山を下りたのであった。

さて年は明け、当初、山開き早々にアタックするつもりであったが、今年は雪が多く、6月中は雪で標識も一部埋もれており、大事をとて7月末の決行となった。

昨年と同じコースを高山病に悩まされつつ歩き、16:30山小屋に到着。翌日1:30出発で頭痛をひきずりながら登っていく。3時山頂到着、約1時間半、早朝の寒気に凍えながら日の出を待った。

日の出後は早速作業開始、時計回りにお鉢を回って標識を点検する。1年半たった今、すでに、突風にさらされて、細かい傷はできていたが、表示板はきれいなままだった。標識裏のとれた管理プレートを貼り付けていく。3枚補修の予定だったが、実は6箇所とっていた……万事窮す、と思いきや、標識の近くに落ちており、それを拾って磨いて再使用する。

実は、最後のプレートは、どこにも見あたらなかったのだが、夏休みで同行していた息子が、根元を掘って発見（10cmほど掘った）、事なきを得たのであった。落下後、風で土砂がかぶつたのであろう！（富士山頂の気象、恐るべし）

本日も富士山は多くの人が往来している。結構多くの人が、立ち止まって解説板を読んでいる。ああ、このサインは我々が手掛けた中で、最も天上に近いサインかもしれない。



岩にとりつけた解説板



剣ヶ峰を望む道標



腕付き道標



解説板



メンテナンス風景



メンテナンス風景

# 伊勢志摩国立公園 神島

神島は鳥羽港の沖合に浮かぶ周囲4kmほどの小島で三島由紀夫の小説『潮騒』の舞台となったところです。市指定天然記念物であるカルスト地形や神島灯台、監的哨跡、八代神社など、見どころ豊富な神島を、さらに快適に楽しめるよう、遊歩道（近畿自然歩道）沿いの標識整備を行いました。

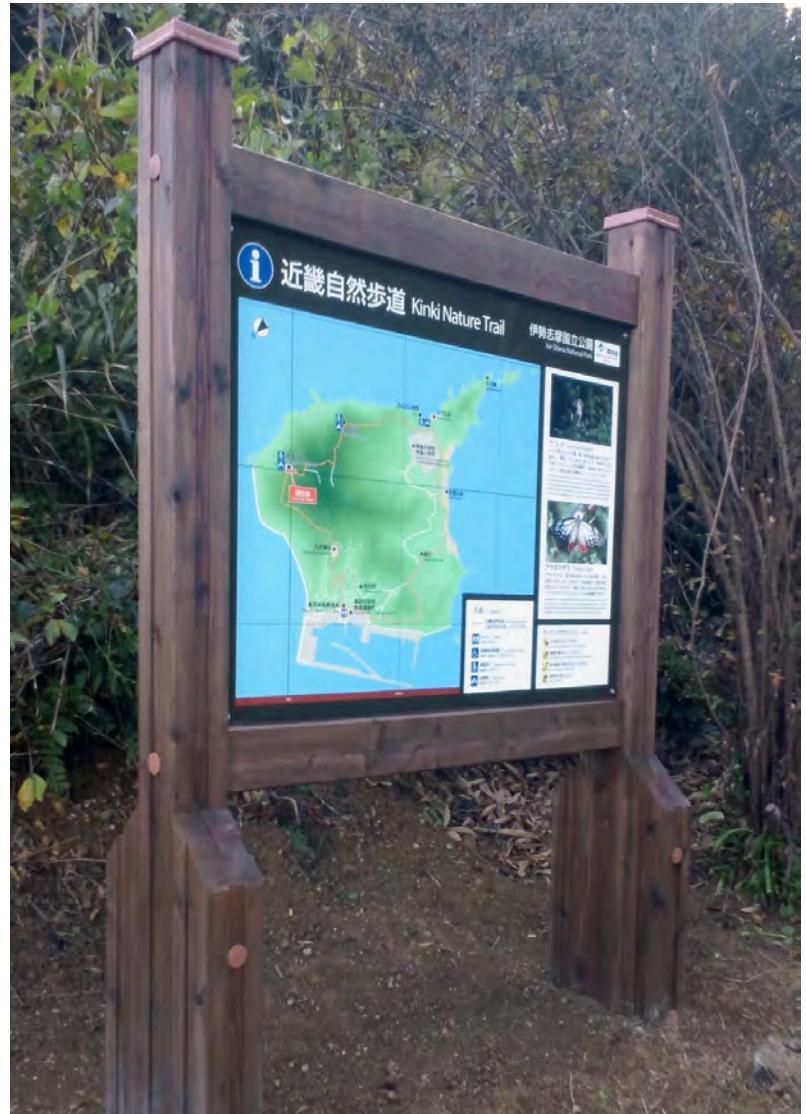
設計段階から計画に携わり、島の全ルートを歩き既存標識の現状を調査して、新たに整備する標識の設置箇所の検討やデザイン提案もおこないました。（全ルートと言いましても1周徒歩2時間程度の小さな島ですが。）

標識は、年間を通じて風が強く、設置場所も海岸沿いという面を考慮し、維持やメンテナンスの負担が軽いグロッシャープロテクト印刷を使用しました。本体は三重県産杉材です。

伊勢エビやカキ、アワビ、大アサリ等、海の幸が有名な地域ですが、毎回コンビニ弁当持参で現場を歩き回った記憶があります。島に渡るフェリーがとても揺れるので、波の高い日は船酔いとの格闘でした。船酔いは酷かつたですが、伊勢の地ビールで酔った記憶はありません。念のため。



神島はこんな海の幸でいっぱいです。（写真はイメージです）



総合案内標識  
新規の案内サインは角柱を用い、意匠として控柱をつけました。



総合案内標識  
既存の木製本体の表示板を取り替えました。



解説標識  
海沿いの遊歩道は風が強いので表示板はグロッシャープロテクトを使いました。



誘導標識  
街中をぬう遊歩道の誘導は建物近くにも設けられています。

# 吉野熊野国立公園 大台ヶ原

## 東大台ヶ原山上周遊コースサイン

関西のハイカーにとって大台ヶ原は、手軽に亜高山帯の自然と触れ合うことのできる人気スポットです。1981年、ドライブウェイが無料になってから、山上まで手軽に車で乗入れることが可能になり、さらに多くの人が訪れるようになりましたが、山を知らない観光客も山に入るため、道迷いなどの遭難騒ぎも相次ぎました。

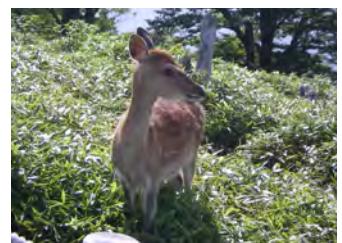
人気の東大台ヶ原は、様々な標識が新旧問わず乱立し、そのために逆にわかりづらくなつて道迷いなどの事故がおこるようになったため、環境省と奈良県は一度、既存の標識を全て調査し、分類して精査し、新たに統一したサインを設置することに乗り出しました。

東大台ヶ原の山上周遊コースの標識は、基本設計から実施設計、施工完了するまで約4年を費やしましたが、統一マークや標識のシリアルナンバーの表示、海外の観光客を見据えたピクト表記と英語表記、そして利用注意サインは中国語・ハングルを加えた4ヶ国表記とし、統一感あるサインへと生まれ変わりました。

標識の本体については、設計時から糸余曲折ありましたが、当時の近畿地方環境事務所の意向で、特別保護区のため薬剤注入はしない方針を打ち出し、奈良県産桧材の焼磨き仕様となりました。表示板は耐候性が高く色表現にも定評のあるハイブリッドカラーを使用し、当時としては一步リードした山岳サインの走りとなりました。



マナーサインは四か国語表記



山頂付近のシカ



案内図標識取付



テッキ取付の誘導標識



ドライブウェイ沿いに立つ利用マナーサイン



苦労して取り付けた山頂の総合案内標識

## 西大台ヶ原利用調整地区案内サイン

大台ヶ原は、環境省の取り組む「自然再生事業」に力を入れており、中でもオーバーユースによって荒廃した西大台ヶ原を「利用調整地区」にし、入山を制限することで、自然再生を促進するよう事業化されていました。

そこで東大台ヶ原に続き、西大台ヶ原でもサイン計画をお手伝いし、さらに利用調整地区に関する利用注意ピクトを考案しました。この時、東大台ヶ原においても追加サインと案内地図の更新シールの取付作業も請け負いました。ブナ林の中、時折、シカの警戒音の響く中、表示板をもって山を歩き、施工に従事しました。

3年後、秋に西大台に行く機会がありました。事前手続きを行い、入山前にビジターセンターでレクチャーをうけてシカ柵の扉を開けて入ります。入山規制されているせいか、ゴミ一つなく、静かな秋の山が楽しめました。



利用調整地区案内板  
入口付近の注意事項を記した案内サイン



簡易案内サイン  
山頂付近の簡易案内サイン



壁面取付案内  
シオカラ橋付近の擁壁に取付



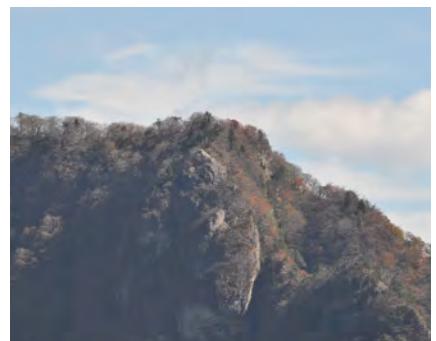
園路沿いの立入禁止板  
ロープ柵に立入禁止サインを取り付ける。



ビジターセンター  
入山前にセンターでレクチャーをうける。



静かで美しいブナ林の紅葉



大蛇グラ  
ピークからは、東大台の大蛇グラの岩場が見える。

# 瀬戸内海国立公園 由良園地

明治期に築かれた由良要塞の遺構が多数現存し、希少な生き物の宝庫でもある生石山は、自然・歴史・文化的に優れた資源をもつ「生石公園」として利用促進を図るべく平成 20 年度より 2 カ年にわたり園地整備を行いました。

標識作成の過程では地元の有識者や学校の先生を訪ねて話を聞きし、さらに図書館や市役所で資料を探したりしました。しかし、重要軍事施設ということもあり当時の記録や文献が残っておらず、特に解説標識には苦労しました。標識は兵庫県産杉材を用い、腐りやすい地際と天端は銅板を巻きました。表示板は耐候性を高めるため、スーパーカラー R 印刷に AB コート（珪酸化特殊被膜）で仕上げました。

また、整備される前の現地は鬱蒼とした斜面林で、ヤブ漕ぎをしながら調査した際には、ニホンジカの糞や足跡、15m以上もあるホルトノキ等も確認でき、島の自然を満喫できました  
が……由良漁港の海の幸、ハモやタイ、フグなどは、何度も通った現場ですが確認することはできませんでした。



展望台と展望案内標識 紀淡海峡に浮かぶ友ヶ島や、和歌山県、加太の岬などが望めます。



確認できなかった海の幸（想像）（左からシマアジ・タイ・カンパチ）



総合案内標識  
南北に広がる海岸林に造られた散策路からは時折、海が眺められます。



道標と要塞の解説板  
軍事施設のため、資料探しに一苦労。

# 伊勢志摩国立公園 施設点検

日頃からお世話になっている環境省中部地方環境事務所の方とサインの打ち合わせをしているとき、「そういえばアボックさんって施設の点検業務って出来ないのかな？」と、突然話を振られました。折りしもアボック社では UTST 事業部（遊具点検修繕チーム）という部署が発足したばかりで、……「いつやるの？ いまでしょ！」というタイミングだったため、詳しい内容をお聞きし、お引き受けすることとなりました。

というわけで、神奈川県大船の本社から助っ人として点検のプロである精銳 2 名を呼び寄せ、私と部下の計 4 名で、横山園地の施設点検が始まりました。

横山園地の遊歩道の周辺は、ツバキ、サクラ、ツツジなどの花木が、四季折々の見事な風景を作り出し、横山展望台、パノラマ展望台、見晴展望台、英虞湾展望台と 4 つの展望台があり、美しいリアス式海岸を一望することのできる伊勢志摩随一といえる展望スポットがあります。

これら大小の展望台、木製スロープ、サインなどの木製製品が、今回の点検対象で、JPFA の劣化判定に基づき点検調査開始しました。



美景のリアス式海岸に目もくれず点検！

## - 点検日誌より抜粋 「木製スロープ点検」より -

歩行面の床板にすべり止め対応なのか？ゴムシートがきれいに貼られている。「何か嫌な感じがする。」と班長が言い出した。木にとって雨仕舞が悪い納まりや細工は禁物らしい。ゴムシートの破けている箇所を見つけてシートを剥いでみると、案の定、床板が蒸れて腐朽していた。すぐさま、床下の急斜面の岩場に潜り込み、覗いてみると床板の裏がカビだらけになっていた。「ん～これはヤバイ！」大引きや根太までが腐朽していると多額の修繕費がかかってしまう他、工事期間も相当なものになるので利用者に迷惑がかかつてしまう。テストハンマーで大引きや根太を打診してみたところ、ごく一部は腐朽しているが、早急な処置を行えば修繕コストは抑えられると思った。

しかし、このスロープ、車イス対応なのか勾配がゆるくジグザクに何度も折り返しており、延長 230 メートルもある。はたして予定期間の 2 日間で点検を無事終えられるのか不安……。

結果、4 名の精鋭部隊？（この点検を通じて我々も精鋭になった？）の無駄のない働きにより、たいしたトラブルもおこらず、予定通りに作業が終了しました。

（日没が近づき、作業終了間際になると、冷えたビールを伊勢志摩の海の幸で一杯！という思いで頭がいっぱいになりますが、今回も経費削減のため、吉野家の牛丼で空腹を満たすのでした。）

後日、中部地方環境事務所に点検結果報告と、ゴムシート張りからノンスリップ加工の床板に替えるなど腐朽がしにくい修繕提案をし、次年度にはこの修繕提案が採用されました。「的確な診断」と「最良の提案」で醍醐味を感じた案件でした。



雨水が入り込んで腐朽が進行している……

(床に張られたゴムシート：ゴムシートの下、板が蒸れて随所に腐朽が見られる)



修繕提案前の腐朽状況

ジグザグに折り返す延長 230m のスロープ。(床にはゴムシートが張られている)



妄想ショット（魚煮つけと生ビール）

夢の 1 枚？……伊勢志摩は言わずとした伊勢海老、海女さんが漁獲した黒鮑などが有名です。



展望デッキ フェンス点検状況

眼前に素晴らしい眺めが広がっているが、景色を楽しむ余裕もない。



展望台（大）

重要部材は丹念に打診！打つべし！打つべし！



野外卓

地際はやはり腐朽が進行しているなあ

# 秩父・多摩・甲斐国立公園 標識点検

## 国立公園入口標識・晚秋の点検顛末記

これは、平成 22 年 11 月末に行った「秩父・多摩・甲斐国立公園」の入口標識の点検業務における 4 日間の記録である。  
(21 箇所を 3 日で回れると見積もったが、大事をとって前日の夜から出発した。)

11/27

夜 20 時、新橋（東京営業所）を出発。明日朝より仕事にかかるため、本日は今回の現場で最も遠い長野県川上村の毛木場園地まで入ることにする。サインデザイナーの倉橋氏と中央道を北上する。須坂で下りてナビ通りに進む。電灯など無く夜が暗い。途中気温 0°C、晩秋の高原をなめたらいかん。清里のそばを通り、川上村に入る。やがて道は林道になり 3 kmほど行くと、園地の駐車場にでた。明日早朝から甲武信ヶ岳に登る登山者の車が 10 数台止まっている。車の前にテントを貼っている組もあった。

明日点検する標識を確認し、仮眠に入る。外は -3 度くらいか？ 寒い。周囲はすでにびっしり霜がおりている。標高約 1400m、天気良く星の瞬きがすごい。

晩秋の高地をなめていた。車もエンジンを切ると超寒い。もう、うつらうつらするが 30 分に一度は目を覚ます。夜明けが待ちどおしかった。

11/28

なんとか夜が明けてきた。もう寒すぎるので車の外でガスコンロをつけて、コーヒーを飲む。早朝から甲武信ヶ岳を目指す登山者も起きてきた。雪のように霜が降りているが晴天。登山の方と情報交換しつつ、準備して、点検開始。木製サインだが劣化は少なく、1 基、15 分ほど。周囲の写真撮っても 20 分ほどで終了。次の三国峠へ移動。三国峠は陽が昇っているのだが、風の通り道で超寒い。今回、最も標高の高い 1740m。凍えながら調査を終え、梓山公民館前へ。ここからは気温もあがってきて楽だった。廻り目平のキャンプ場は、工事で車が入れずに 1 kmほど歩く。ここは小川山とか岩場が近いので、クライマーたちがクッションをかついで登ってきている。その後は山梨県にて、みずがき湖、昇仙峡とへ、甲府にて。16 時半くらい。予定より早い！ いいペースだ。甲府のホテルはなんと大浴場が自由に入れる。昨日の凍える夜を思えば、天国と地獄だ。



夜明けと共に甲武信ヶ岳へ登る登山者



地際部の腐り（まだ表面だけ）



凄まじいオスジカの死骸

11/29

ホテルの朝食はとらず、夜明けと共に出発。本日は川浦、三富道の駅をへて秩父に向かう。そこからまた戻って、大菩薩、柳沢峠を越えて奥多摩だ。朝、標識につく霜が陽に光る中、点検開始。地際部は一部腐食も見られるが、まだまだ大丈夫だ。案内図は、向きによって日当たりの良いものは退色も見られる。道の駅をすぎ、雁坂トンネルを越えて大滝にでる途中、道路に雄鹿の死骸が転がっていた。なんと胴体が二つにちぎれている。どんな轢かれ方をしたのだ。しばらく路肩に止めて写真撮る。しかし秩父から戻ってくると、ちょうど埼玉県の道路公社が片付け終わつたところだった。時間にして 1 時間半くらい？ 早い！ さすが、観光先進県！

その後も順調に進み、柳沢峠の茶屋で昼食。予定では今日の最終ポイントだが、いいペースなので、先に進み奥多摩十里木までやる。宿は丹波山村にとっていたから、また戻る。本日は小さな民宿だが、ちゃんとストーブも炬燵もある。ありがたい。

11/30

本日最終日、残す所 4箇所なので慌てることはないが、夕方の渋滞前に東京に戻りたいので、予定通り早朝から出発。本日も晴天。道路脇の法面には子ザルがたわむれている。今日はもう平日なので、奥多摩も空いている。寒山寺をへて日向和田の駅前に。ここはもう駅前の自転車が案内標識の前に止めてあって、近づいて見ることができない……いかん。

なぜか支柱の天端の釘が飛び出しているため打ち直す。石垣上の記名標識は脚立を立てるスペースが狭いので往生した。長野県以外は普通にオイルステイン系の塗装なので若干劣化はあるが十分見れている。長野のWPCの樹脂コートは劣化してヒビが入るとやっかいな事を思い知る。最後の肝要の里が終わって、11時前、帰路につく。



日向和田駅近くの記名標識



日向和田駅前の総合案内板  
標識前に駐輪自転車が何層にもなり、ハイカーが近づけない



長野県の標識のWPC加工、表面コートの剥離



梅郷の交差点の標識  
表面塗装が薄くなっているが、剥離よりは良い。

## 総括

国立公園の標識なので木製であるが、場所が良いのか、まだ十分保っていた。10年経つてないこともあるが、この分だと15年はいけそうに思う。標識は人が触ったり、乗ったりするものでないことも寿命が長い所以だろう。案内図は一部退色が見られる。周辺の情報もいくつか変わっているので、10年区切りの更新が必要かもしれない。翌年、みずがき湖の案内板等3箇所について、表示板のみ更新した。



みずがき湖の案内板 更新前



みずがき湖の案内板 更新後